

ペアレントスケッチャーマニュアル
ヒヤリハットの事故防止意識

目次

| | |
|--|---|
| はじめに | 3 |
| 「ヒヤリ、ハット」時の事故防止意識の再確認等に関する事項 | 4 |
| 保育現場のヒヤリハットを再確認！安全な環境づくりに努めよう！！ | 4 |
| 転落・転倒 | 4 |
| 誤飲 | 4 |
| 水の事故 | 4 |
| 食物アレルギー | 5 |
| やけど | 5 |
| 衝突 | 5 |
| 睡眠中の窒息 | 6 |
| 睡眠中の窒息は命に関わります。特に乳児はこまめな呼吸確認が大切です。 | 6 |
| 交通事故 | 6 |
| 不審者 | 6 |
| 事故予防は入念な再確認が大切 | 7 |

はじめに

子どもを保育することは、子どもの命を預かることと同様で、極めて責任の重い仕事であると同時に、把握しておかなければならない事項、マニュアルが数多くあります。

保護者とともに未来を担う子どもたちの成長を育む、非常にやりがいのある仕事です。

ペアレントスケッターでは、安全・安心な保育の実現を目指しており、その実現には、認可外保育施設、保育者の皆様の協力が不可欠であります。

このたび、保育をするにあたり、必要なことや、注意しなければならないことをまとめた各保育事項・各保育マニュアルを作成いたしました。本マニュアルは、日々の保育のあり方を中心に各項目に特化したものとなっております。未来を担う子どもたちが笑顔で健やかに過ごせるよう、本マニュアルをご活用いただき、安全・安心な保育の実現にご協力をお願いいたします。

ペアレントスケッター

「ヒヤリ、ハット」時の事故防止意識の再確認等に関する事項

保育現場のヒヤリハットを再確認！安全な環境づくりに努めよう！！

転落・転倒

階段やベランダからの転落に注意しましょう。ダンボールや収納ボックスなどを踏み台にして高所から転落する事故もあります。また、屋外の階段や遊具等からの転落・転倒にも要注意です。

誤飲

小さなおもちゃや制作物のパーツなどの誤飲に注意しましょう。特に乳児は誤飲が起こりやすく、環境整備が重要です。トイレトペーパーの芯をくぐる大きさのものであれば子どもは飲み込んでしまいます。

薬剤やタバコを誤飲した場合も要注意。日本中毒情報センターの中毒 110 番（電話 029-852-9999）に電話をすると適切な対処方法を教えてくれます。

水の事故

プールや川、海など水辺の事故にも気をつけましょう。ふと目を離した瞬間に子どもが溺れたり転落したりするケースもあります。人数確認を怠らないようにしましょう。また、川や海へ散歩などに行く場合はライフジャケットを着用することで命を守ることができます。

そして、沐浴槽に湯を張ったままにすることも事故の原因となります。使っていない時は湯を抜きましょう。

食物アレルギー

食物アレルギーによる死亡事故も起こっています。アレルギーのある子どもに配膳をする時は保育者がダブルチェックを行い、全体でアレルギーに関する情報を共有しましょう。

子ども同士で食べ物を分け与えてしまうケースもあります。食事の時間は保育者が必ず近くで注意して見守るようにしましょう。

やけど

暖房器具やクッキング中の事故が報告されています。ホットカーペットや床暖房を導入している園では低温やけどにも気をつけてください。

また、普段と違う環境や行事の時に事故は起こりやすいものです。予測できる危険に関してはあらかじめ対策を検討することが大切です。

衝突

子どもは大人よりも視野が狭いため物や人に衝突しやすい傾向があります。日頃から子どもたちと約束をし、環境整備を行うようにしましょう。走ってきた子ども同士がぶつかり、机や家具に誤って衝突するといったような事故は保育現場で最も起こりやすいと言えます。

睡眠中の窒息

睡眠中の窒息は命に関わります。特に乳児はこまめな呼吸確認が大切です。

うつぶせ寝になっていないか、顔に寝具がかかっているか、鼻が詰まって苦しそうではないか、吐いた物を飲み込んでいないかなど、一人ひとりの顔を見ながらチェックします。

最近では子どもの呼吸を検知して記録する便利なIoTも導入されています。そういったツールを使用する場合は、誤作動の可能性もあるため頼りきりにならないように気をつけましょう。あくまでもダブルチェックの道具です。

交通事故

外に出る場合は交通事故に気をつける必要があります。歩道を歩く大切さや飛び出しの危険性、信号のルールなどを出発前に子どもと確認することも事故予防になります。

交通事故というと自動車の事故をイメージしますが、電車にも気をつけましょう。走ってくる電車を見たくて線路内に立ち入ってしまったというヒヤリハットもあります。また、電車に乗って出かける場合はホームからの転落にも注意しましょう。

不審者

不審者による声掛けや連れ去りにも注意しなくてはなりません。不審人物が近づいてきた場合、保育者同士で連携を図り安全を確保しましょう。最寄りの交番や警察署の場所を確認しておき、場合によっては通報してSOSを発することも必要です。家の中などに不審者を入れないよう、防犯カメラやモニターも活用しましょう。

不審者による事件は保育者の目だけでは防ぎきれない可能性もあるので、地域全体で子どもを守る意識も必要です。日頃から地域の人々に挨拶を行うなどして、より多くの大人の目で地域の子どもたちを守りましょう。

事故予防は入念な再確認が大切

取り返しのつかない事故が起こらないように、全員が共通認識を持つと同時に子どもたちにも約束事を伝えていきましょう。

特に新年度や連休明けのタイミングは事故が起きやすいと言われています。普段から十分に注意している場合であっても、ぜひ再確認してみてくださいね。